

平成28年度 第2回北上市総合教育会議 会議録

1 日時

平成29年1月27日（金） 午後1時30分開会
午後3時30分閉会

2 場所

北上市役所5階第1会議室

3 内容

- (1) 第2次北上市食育推進計画について
- (2) 平成29年度予算編成と教育関係の施策事業について

4 会議に出席した構成員

高橋敏彦北上市長
小原善則教育長
薄衣景子教育長職務代理者
高橋善郎教育委員
高橋きぬ代教育委員

5 オブザーバー

及川義明副市長

6 説明のため出席した職員

企画部

松田幸三企画部長
高橋謙輔政策企画課長

財務部

佐藤光一財務部長
鈴木真財政課長

まちづくり部

佐藤秀城まちづくり部長
照井啓治まちづくり部参事
八重樫信治生涯学習文化課長
高橋剛スポーツ推進課長
及川健二国体推進課長

保健福祉部

熊谷春夫保健福祉部長
高橋昌弘健康増進課長

教育部

齋藤昌彦教育部子育て支援課長

高橋博教育部文化財課長
千田研洋給食センター所長
高橋景子中央図書館長
渡辺茂尚教育部学校教育課長補佐

7 事務局

阿部裕子教育部長
菅野和之教育部総務課長
佐藤祐介教育部総務課長補佐

8 傍聴者

1名

9 主な意見

(1) 第2次北上市食育推進計画について

- ・ 食事は大人が用意することが多く、大人の朝ごはんを食べない率を改善することで、子どもも食べるようになると思う。また、企業を通して取り組んでもらうことで、子どもの朝食摂取率も増えてくると思う。
- ・ 取り組み例が常に直線的。色々組み合わせた取り組みがあるのではないか。また、企業の取り組みの他に地区交流センターでも取り組むと、さらに浸透していくのではないか。
- ・ 取り組み例の記載が、自分から進んでそれらを手に入れなければならないような表記に感じる。また、「計画の推進体制」の中で、進行管理をする体制があればいいと思う。
- ・ 食育推進協議会に情報提供すると、それぞれが柱となって活躍してくれると思う。
- ・ SNSは非常に周知しやすいツールなので、それを取り入れた情報配信をするとかなりの広がりを見せるのではないか。
- ・ 生産者を増やすために食育団体の「農作業や収穫体験の開催」で小中学生の職場見学や職場体験を積極的に活用した方がいい。
- ・ 減塩の取組みについて、例えば簡単に塩分量を計る道具を学校に貸し出し、子ども自身が覚えた方が親に波及しやすいのではないか。

(2) 平成29年度予算編成と教育関係の施策事業について

- ・ 個別支援事業について、増やしていただいているありがたい。北上は子ども達に非常にていねいに指導してくれる安心・安全な学校が多いということになれば、評判も良く増えるのではないかと思うので、今後も更に予算配慮していただければありがたい。
- ・ 前にシティプロモーションの話の際、対外へのプロモーションも大事だが、対内へのプロモーションもして行って欲しいと話した。設備等のハード面の計画も情報発信することによって、市民が安心して子育てが出来ると思うので積極的に情報を発信してほしい。

10 会議録

次のとおり

(開会 午後1時30分)

教育部長

ただいまから平成28年度第2回北上市総合教育会議を開会いたします。

協議に入りますまで、進行を務めさせていただきます教育部長の阿部でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、高橋市長からあいさつをお願いいたします。

市長

みなさん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。新年のあいさつも今日が最後くらいかなと思います。

今日は、足元の悪い中、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。総合教育会議は今日で2回目ということでございます。委員の皆さん方が大変気にしていらっしゃる教育環境、特に施設の状況という事が前回も議題にあげようかということでしたが、まだこちらの体制が整っていないということでした。今回は、来年度の予算編成がほぼ終盤で、市長査定が今週終わったところですので、その概要を説明させていただきたいと思っています。基本的な柱とすれば、「あじさい都市」という名前をつけさせていただいて進めている、その総合戦略を強力に進めていきたいと思い、4つの柱を立てて特色のある予算立てにしたいと思っています。その中でも、4つの柱というのは「結婚・出産・子育て」、この総合教育会議のテーマに一番近いところです。そこに、目に見える形で予算をつけていこうというふうにしています。その中の3つとすれば、「地域産業の振興」については、若い人たちのUターン・Iターンを通して雇用を増やしていこうと。それから、新しい産業をつくり、起業を支援していこうという考え方で、今、取り組もうとしています。3つ目は、「公共交通」で、これも「地域との協働の中で持続可能な使いやすい公共交通を目指していこう」と、今年度もう少しで出来上がりますが、計画ができますので、来年度具体的なアクションプランをつくり、手掛けられるところから試験的に手掛けていこうという形にしています。4つ目というのが「シティプロモーション」というふうにあげています。この3本の柱も含めて、北上市の政策についても、北上市の今の状況についても、しっかりと全国にPRしていきたい。それから、例えばラグビーワールドカップ、オリンピックのような全国的な大イベントも取り込みながら、北上市を外に向かって発信していこうという形にしてい

ます。そのほかには、「総合計画」に沿ったものを、しっかりと前に進めていこうというような形で、予算をつくらせていただいています。その中から、今日は「教育関係」に絞った内容を紹介させていただきますので、是非、忌憚のない御発言をいただければと思います。

それから、一番目に「第2次北上市食育推進計画」というのが出来てまいりました。その内容の説明をさせていただきたいと思っています。それについても皆さん方に忌憚のない意見を賜れば、と思います。どうぞよろしくお願いします。

教育部長 続いて、教育長からあいさつをお願いいたします。

教育長 市長さん、副市長さんにおかれましては、お忙しい中、お時間をとっていただきまして、今年度、第2回目の総合教育会議を開催いたしました。ありがとうございます。また、教育委員の皆さんにおかれましては、平成29年第1回目の定例教育会議を昨日開催したばかりで、連日、市役所に来ていただいております。本当にありがとうございます。今年度の教育委員会の様々な施策におきまして、市当局の大きな御支持をいただきまして、課題はあるものの、それなりの成果を確実に、上げてきた一年であったと振り返っています。特に、市内小中学生の様々な分野での活躍につきましては、市長さん・副市長さんも御理解いただいている通りでございます。合唱や吹奏楽の全国レベルの活躍は、大きくマスコミ等にも取り上げられている通りです。加えて申し上げますと、合唱や吹奏楽といった文化面での活動につきましては、全国大会にコマを進めた学校のみならず、それに続く学校が二つ三つと今出ている状況でございます。夢は、ここ北上から二つ、あるいは三つと全国大会出場枠を占めて行けるといふふうになることですが、あまり大きな夢を申し上げましても結果を見て残念ということもありますが、それだけの着実な成果が市内の子どもたちの中に出てきているのは大変嬉しく、直接担当している先生方、また、それを支援している文化創造のさくらホールが存在、非常に大きな力を与えていただいているところですので。また、今年度は10月の第70回国民体育大会、あるいは、第16回目を迎えた全国障害者スポーツ大会で、御案内の通り市内の子どもたちが大活躍をして迎えたということ、また子どもたちを指導していただいた地域の方々、先生方、本当に感謝をするところ

ろです。「北上の子どもたちには大きな力がある」と確信できた今年度であったと思っています。

国の方では、2020年に「新学習指導要領」を順次スタートするというので、今作成中でございます。2020年をターゲットイヤーとする様々な施策・構想が今、国の方から出されてきています。その中でも、一つは小学校の英語活動が現在の5・6年生から3・4年生からスタートするというような、時期を早めた取り組みが今提唱されております。その準備に残り3年ということになりましたので、全国の市町村が、どのようにそれに対応するか、ということを検討している最中です。幸いにして、英語教育には、北上市当局の御理解をいただきまして、様々な形での予算をつけていただきました。かつては2名しかいなかったALTが、現在は4～5名という状況まで来ています。しかしながら、全部の小中学校、あるいはその域内の保育園・幼稚園の方までALTの皆さんが訪問をして、外国語活動に理解をいただいて、広まっていくというためにはまだまだ充足させていかなければならない施策があります。それも含めて私たちは、出来る限りの範囲内の中でなんとか成果を出していきたい、と思っているところです。本日は、「第2次市食育推進計画」、そして、「予算編成と教育関係の施策事業について」というテーマを市当局からの協議という形で話し合いをさせていただく、大変ありがたいと思っております。特に、北上市食育推進計画につきましては、子供達の健全育成にはなくてはならない非常に重要な施策です。現在は、不登校の数とか、あるいは心配される要保護、準要保護の家庭とか、非常に大きな課題を背負ってきているのが北上に限らない状況です。市長さんには、御心配をお掛けして申し訳なく思っていますが、不登校の数というものも、平成21年度から25年度まで大きく減少してきたものが、26年度・27年度には若干増加傾向にあるという状況です。学校の先生方だけではなく、地域をあげて、市をあげて様々苦勞されている子どもたち、家庭を支援していく方策を考えていきたい、そんなことの一つに食育計画もあるのではないかと思っているところです。本日は、限られた時間ではございますが、御指導をいただきますようお願いいたします。

教育部長

それでは、協議からは市長が座長として、進行をお願いいたします。

市長 それでは3の協議に入ります。最初に(1)第2次北上市食育推進計画について説明をお願いします。

保健福祉部長 食育の推進につきましては、これまでも第1次食育推進計画におきまして、取り組んできたところでありますが、食事は、健康な体をつくる基本となり、大切なものであり、引き続きこの食育を推進する必要があることから、今年度におきまして、平成29年度から5か年の第2次食育推進計画を策定しているところであります。食育の推進に当たりましては、子どもから大人までその重要性を理解してもらうことが大切だと考えておりまして、そういった視点を含めまして、第2次計画の素案ができたことから、本日は教育委員の皆様にもこの計画について、御意見をお伺いし、よりよい推進計画にしたいと考え協議するものでございます。資料の説明は健康増進課長から説明いたさせます。

(健康増進課長が素案の説明)

市長 今日の皆さんからの意見は、パブリックコメントと同じような形になるのか、その前に修正にかけるのか

健康増進課長 修正する予定です。

市長 その後、議員に説明するという事です。

それでは、ただ今説明していただいた内容について、皆様から御意見等がございましたらお願いします。

高橋善郎委員 教育委員として、特に子どもたちに注目しがちですが、これを見ていると子どもが摂取する食事というのは、大人が用意するのがほとんどになりますよね。何でもそうですが、大人の社会で起きている現象が、子どもの社会に起きてくるということが往々にしてあります。家庭の大人の朝ごはん食べない率が結構低いので、まず、ここを改善すると、当然子どもも食べる。そうすると、朝ご飯の摂取も増えてくると思います。いろいろなアプローチをしている中で、企業さんが抜けていると思いました。例えば、交通安全週間の呼びかけなどは企業毎に取り組みます。企業毎に取り組んでもらうということは、大人に対してのPRの場として、とても有効だと思いま

す。私も会社を経営している身で、「朝ご飯を食べてきましたか」と、声かけをするのですが、会社として「朝ご飯をしっかり摂りましょう」ということをうたう場面が出てくると、当然それは家庭にも波及していったら、子どもの朝食摂取率が増えてくると思うので、この計画の中に、まず企業だと取りまとめがし易いと思いますので、企業で「朝ご飯の摂取の促進」を推進計画の中のひとつとして入れていただくといいのではないかと感じました。

市長 計画の推進体勢に含まれると思いますが、この件について本編に記述があるかどうか、無ければ、今後どうするのか

健康増進課長 企業の部分というのは、私も見ていて思いました。この辺は、なかなか難しいところがあるのですが、健康づくりの観点で、企業との連携を進められないかということを考えています。例えば、その場合に保険者としてしまえば、大企業であれば、保険組合がありますので、そちらを通じて話は出来るのですが、中小企業、特に協会健保に加入されている企業が北上市の場合は多いので、先日、協会健保と話をさせていただきました。協会健保を通じながら、「健康づくりを一緒にやってみましょう」という話を始めているところです。その中で「朝食を摂りましょう」という運動も一緒にできませんかというお話することで、隅々まで浸透していけるような状況をつくれませんか、模索していきたいと思っていますところです。

市長 取り組み例の中に企業という項目がないということで、その辺を検討させていただくということですね。

健康増進課長 はい

市長 ほかに、何かございますか。

薄衣景子委員 こちらの「基本理念」「基本目標」「基本施策」「取り組み例」と、細かく書いてあって、とてもわかりやすいのですが、常に直線なので、例えば、真ん中の基本目標の②と③を組み合わせた取り組み例もあるのではないかと思います。この計画を推進していく上で、学校で食育、特に、地産地消をテーマとした家庭科の調理実習のような実践的な取り組み例もあってもいいのではないかと思います。こ

の表のように、縦だけではなく、組み合わせをすることによって、更に、バリエーションのある取り組みがつながっていくのではないかと感じています。

それから、先ほど高橋委員から「企業の取り組みも」というお話がありました。それはその通りです。更に、地区交流センターのような所でも、郷土食を伝承していくような取り組みというのは、一番地域と繋がっているのでやりやすいパッションのひとつではないかと感じています。このいろいろな取り組み例を全部見させていただきましたが、例えば29ページに、今、申し上げたような地域の郷土食というのは、行政が取り組むだけでなく、その行政の中にも、それぞれの地区交流センターがひとつの会場になってやれば、さらに浸透していくいい場所ではないかと思えます。

市長 はい、ありがとうございます。それぞれの目標ごとの施策と取り組み例の連携の表示があってもいいのではないかと。それから、郷土食に関しては、実際にはもうすでに、各地区で市政座談会等をやっている場合、それぞれの地域の特産品を紹介したり、それぞれの地域で採れるものを調理して紹介してくれたり、実際にやっていますので、そういったものの取り組み例も入れておいた方がいいのではないかと。いかがでしょうか。

健康増進課長 ひとつ目の基本目標の関係ですが、確かに直線的には書かせていただきました。ただ、取り組み例とかにつきましても、中身のところでは、②と③が絡んでくるところがございますので、今言ったところも踏まえて、表現の方をもう少し工夫して考えたいと思います。

それから、ふたつ目の郷土食の件ですが、地域等でいろいろやっているというのは、その通りです。そういったところの取り組み例が足りないという御指摘と考えてよろしいですか。

薄衣景子委員 足りないということではなくて、もっと活用を推進していった方がいいのではないかと。この役所の中の取り組みだけではなく

市長 少しシュミレートして紹介をした方が、広がりを持たせられるのではないかと、ということではないですか？

薄衣景子委員 はい

健康増進課長 わかりました。その辺は、記述の方も少し考えたいと思います。現に、食生活改善委員の皆さんは各地区で郷土食に関しまして、非常に研究されています。そういったところをいろいろな形で、それぞれ広めています。それぞれの地区でも出しています。それから、先日の国体等で郷土食のお振る舞いをさせていただきました。皆さんに北上の郷土食はこういうものを出していますと、いろいろPRさせていただきました。国体は終わりましたが、引き続きこういった取り組みを続けていけるような機会をつくっていきたいと思っています。この辺は、食生活改善推進協議会の方と協議しながら、取り組んでいけるかどうか少し考えさせていただきたいと思います。

市長 ほかにありますか

高橋きぬ代委員 取り組みで「家庭」「食育団体」「教育機関」「行政」と分けてありますが、この「食育団体」「教育機関」は、意思伝達がスムーズにあって、実践も出来るのではないかと思います。行政の行なっていることも、計画通りに行われると思いますが、一番大事で、一番難しいのは、それが家庭にどのように実践されていくのかということ。特に、行政も教育関係も、そここのところもターゲットにしながら評価しているところだと思いますが、取り組み例を読みますと、家庭のところは「深める」「～する」「参加する」という表現になっています。家庭は、自分から進んでそれらを手に入れなければならないような表記に感じます。実際には、行政がいろいろな手立てがあったのを、交流センター等を活用しながら進めていっているのだと思いますが、家庭側から見て、その辺のところもうまくいっている例がもう少しあれば、さらに家庭とのつながりが見えてくるのではないかと思います。それがまず、一点。もう一点は、これは表記とかではないのですが、9の「計画の推進体制」の中で、PDCAサイクルのサイクルというのは、たぶん1年でのサイクルを考えていると思います。食育推進協議会も1年のサイクルで考えて、反省をし、新しい方向を出していくという形だと思います。それを支えながら、ここに書かれている内容を着実に実行していくのが、たぶん食育推進計画策定推進委員会なのではないかと思います。計画時点では、教育部、農業振興、健康増進等の方たちが集まって検討し、

課題を共有しながら目標を立ててきたと思います。実際にこの時にはこのように、ここではこのようにしていきましょと別れた時に、それを繋ぐものと言いますか、ひとつはその実行管理みたいなものや、今の進行状況はどうなっているのか把握しながら助言、さらに次の目標に向かっていくような気持ちを高めていくコーディネーター的な役割をする人が、とても大事で、そこが要のような気がします。そういった役割は、どなたがしていくのか、もし居るのであれば全体をうまく繋ぎながら、進めていける体制がとれていればいいと思います。

市長 はい、ありがとうございます。確かにそうですね。食育団体、教育機関、行政に関してはやる事はしっかり決まっています、どこまでやったかは把握もできるし、評価もできる。ただ、いざ家庭はとなると、誰がコーディネートして、どのようにやっているのか、やっていないのかを評価するのかなというようなことが、出来るかというのかもしれない、どのように考えているのでしょうか。

健康増進課長 まず家庭での関係ですが、今回このような形で家庭での取り組み、それからそれぞれ関係団体、学校、行政と書かせていただきました。この部分につきましては、今後進めていこうということで、それぞれの関係部署で意思疎通をしっかりと取っているところです。しかし、やはり家庭へというのがなかなか難しいというのが、いろいろ会議等の中で出てきました。非常に大きな課題だと考えていますので、これは、取り組みの中でどう進めていくかということ、知恵を絞りながら進めていこうと思っています。したがって、手さぐりの部分があるとは思いますが、今回のこの計画に書かれた取り組み例を、その部署だけで進めるのではなくて、それぞれ関係する部署としっかり手を携えながら、あるいは関係団体と手を携えながら、しっかり取り組んでいきたいと考えています。

それから推進体制の部分ですが、文書では分かりにくいところがありましたが、食育推進協議会で構成して、中でつくられた方々が今回の計画の中で、「こういうのは取り込んでいける」「こういったものはやれる」と知恵を出していただき、それに基づいて今回作りました。そして、それを食育推進計画策定委員会、これは庁内の委員会ですが、農林部、教育部、保健福祉部の三部と、それから、それ以外に企画部、財務部も一緒になって話し合いました。その中で、

「それではこういう事はやれる」「こういう事をやっていきたいと思います」と考えたものです。行政もしっかり進めていきたいと考えてはいますが、食育推進協議会の各団体の代表の皆さん、こういったところもコーディネーターとまではいかないかもしれませんが、ある程度自分たちもやっていこうという考え方でいますので、こういった皆様と一緒に考えて進めていきたいと思っているところです。実際、今回そういう体制で整えるようになりました。実は、前回の第1次計画の一番の反省点がここだったのです。やはり、計画を作りっぱなし。確かに、チェックはしました。評価もしました。しかしながら、横のつながり、それから、それぞれの各進行管理が足りなかったというところが、大きな反省点です。ここをしっかり捉えて、やっていきたいというのが実は、今回の第2次計画の隠れた肝でございます。そこを前面に出すと、おかしな話になるので、私どもとすれば、その辺は課題解決に向けて、しっかりと進めていきたいと思っています。

高橋きぬ代委員　横との連携、総合的な進み具合は、推進会議とは一つの柱になりながら進めていけそうだというのですが、この推進会議は年に何回くらい

健康増進課長　推進協議会は、少なくとも年1～2回は、開催したいと思っています。翌年度の事業についてのチェック、前年度の評価、こういったところをやっていきますので、協議会ではそういうところを取りまとめて、評価をして次年度に活かすという取り組みで進めていきたいと考えています。これは、推進協議会だけではなくて、庁内の策定推進委員会も同じタイミングで開催していこうと考えています。

学校給食センター
一所長　給食センターです。今の食育の家庭とのつながりという点について、一点補足させていただきます。

給食センターでは、昨年度から学校の方に呼びかけて、子ども達だけを対象にした食育授業をやってきました。しかし、やはり今言ったように家庭への発展がないということで、今年度から先生方に相談して可能な限り、親も一緒に食育の授業を受けていただく、話を聞いていただくという機会をつくるという話を進めているところです。これからも増やしていきたいと思っていますので、そうい

う点では、給食センターとして少し家庭の中までやれることはやってきましたと考えています。以上補足説明しておきます。

薄衣景子委員 食育推進協議会が機能するために、進み具合と言いますか、このようなことを行なっているという実践例みたいなものを、この方たちに情報提供するとより、それぞれが柱となって活躍してくれると感じました。

高橋善郎委員 情報配信についてですが、この中にSNSは入っていないと思いました。かつて、何が一番強いのかという話がありましたが、ロコミがやはり一番強いという気がします。テレビを見て、真似をするというのは非常に多くあるのですが、SNSを北上市自体が配信するとなると、なかなか難しい問題があるかもしれませんが、各団体さんもありますし、減塩の郷土料理の紹介をする、減塩の紹介をするというのが、今たぶん新聞とかで共有するよりも、SNSとかで共有した方が早いし、ピックアップされると思います。例えば、いま給食センターさんのお話がありましたが、私も給食試食会を学校でさせていただいて、自分もよく行きました。お母さん方も来て食事をして、ポイントを先生に聞いて、非常に感心をして帰る。今だと、必ずそれを写真に撮ってSNSに発信する。その中で、「減塩メニューです」「郷土料理をつくってみました」というのがあると、非常に広がりやすく、「朝ごはんに最適なメニュー」とか、いろんなものを発信していくことを、ここには明記できないのかもしれないですが、関係団体の皆さんにお願いをして、どんどん発信をしていきませんかということが入ってくると非常にいいのではないかと思います。

先ほど、薄衣委員さんも言われた基本目標の下の施策の取り組み例が縦にということですが、これは表現の問題だったかとは思いますが、内容を見ていくと連携していくという部分もあるようです。取り組み例もそれぞれ連携しますというところでは、お互いにSNSをカバーし合うというのも、一般家庭に周知しましょう。子どもに、ではなく、大人に…というさっきのところにも立ち戻りますが、市民に周知しましょうという点では、今非常に周知しやすいツールではないかと思いますので、これも検討していただければよろしいのではないのでしょうか。

市長 北上市でも、すでにフェイスブックを流しています。花巻市では今言われたようなことをやり始めようとしています。いいアイデアだと思うので、北上市も、遅れないように取り組んでいきたいと思えます。

照井渉委員 意見というか、感じたところですが8番の「基本目標ごと指標」の③の最後、学校給食における地場産野菜活用割合ということで、先ほど説明の中で、目標が現状維持ですが、その通り生産者が少なくなっているとありますが、実質は増加しています。やはり、食糧等をつくっている私、当事者として、その通り生産者が少なくなっているのは事実ですので、これを増やさない限りはこの増加というのは今後減っていく一方だと思います。それでは、どうすればいいのかとなった時に、左側の基本理念の③の「地産地消で心豊かに暮らす」の取り組み例の中に、食育団体の「農作業や収穫体験の開催」というのがあるので、こういったところを積極的に活用して、小中学生の子ども達に食べ物をつくる大変さ、ありがたさ、重要性を体験していただくということが必要なのではないかと思います。実際に、当社で毎年小学校の職場見学や、中学校の職場体験を受け入れています。体験した後の児童・生徒の感想の中に、「普段何気なく当たり前のように食べていた食料がこんなにも大変な思いで作られている」というので、「これからは残さず食べます」とか、そういった事を書いてくるので、理解はしていただけているのだと感じています。また、そうすることによって、いわゆる食料をつくる職業、農業というものに理解をしていただいて、将来その仕事を選んでいただければ、いわゆる生産者の減少の食い止めにもなるのではないかと感じていますので、このあたりを食育団体、学校、現場の方で積極的に取り入れてもらえればいいのではないかと思います。北上市には本当に頑張っている生産者、農業団体がいますので、是非そちらの方もよろしくお願いします。

それから、一点質問です。③の行政の取り組み例の中に「安全安心な農作物のPR」とありますが、具体的にどのような形のPRを考えているのでしょうか。

市長 では、その前にこの農作業・収穫体験は私も肉の業者の会に、年1回農業体験をさせていただいていますが、その時の収穫した米、「銀河のしずく」も、体験が終わって発売になった時、すぐ買いに

行きました。その「銀河のしずく」に対する思い入れみたいなものは、何もしなかった時より数倍上がるという感覚がありました。大豆もバラもサトイモも収穫させていただきました。そういう体験をすると、その作物に対する思いというのが確実に上がってくる、というふうに実感をしていますので、小学生・中学生あるいは、各団体には是非そういう体験をしてもらおうというのは、確かに有効だと思います。

照井渉委員 やはり、家庭の方でもお母さんが当たり前で作っているものが、こういう想いでたとえば味噌汁とか、苦手な野菜も食べるようにとか、そういうところにまでつながっていくと思います。

健康増進課長 本計画の28ページの上を御覧になっていただきます。「行政が取り組むこと」の中に、「安全安心な農産物についてPRする」という項目を設けさせていただいています。この中に「出前講座」、私も生涯学習の方の制度を使って実施しているところです。これを使って、周知してもらいたい。また、「意見交換会」といったところも考えているところです。それ以外に、安全安心な農産物、地場農産物を給食等で積極的に使うということで、PRになるのではと思います。それを食育授業などで活かしていただけると、しっかりとやっていけると考えています。

薄衣景子委員 質問ですが、減塩の取組みについて重要な課題の一つということをおっしゃっていましたが、減塩を進める取組みについて、こちらの概要版では塩分の摂取量のグラフが出ています。その減塩に対する取組み例のデータというのは何かあるのかどうか。確か、18ページに「減塩を進める取組み」とあります。その食育関係団体の2番目の項目のところに、減塩についての知識を普及するというふうになっています。これは今、現状ではどのような普及の状態になっているのか。例えば、ここに出ている「突撃！隣のおみそ汁」は、実際に北上では何件くらいやっているのか、次の年にはどのくらいにとか、何か目に見える形であると、普及しているのが分かるのではないかと思いました。せっかく例を出しているのであれば、その普及に対するようなグラフもあれば、なお分かりやすいのではないかと思いました。

健康増進課長 減塩の取組みのことについてです。今回この食育プランの中では一つ、減塩を進めていくということで、詳しく書かせていただきました。これと並行して行なう「健康づくりプラン」の方は、もっと深めた形で書いていましたので、この程度にさせていただいたところでした。確かに、普及について、例えば今言った「隣のおみそ汁」、こういったものをやっている、それをどのくらいやっているのかとか、今後それをどのくらいやっていくのかというのを出していくと、分かりやすいというのは、今お話を聞いていて分かりましたので、ここは工夫して考えたいと思います。この中に入れるのか、あるいは「健康づくりプラン」を進める中で出していくのか、この辺は検討させていただければと思います。

高橋善郎委員 私も、ここはやっぱり気になっていたところですが、予算が絡んでくると思いますが、簡単に塩分量を計る、あれを学校に貸し出して、子ども達に各家庭でやらせたら面白いだろうと思って、見ていたことがあります。そういうチャンスがあれば、子ども自身が覚えた方が、親に波及しやすいと思いました。

市長 アイディアですね。

それでは次に(2)平成29年度予算編成と教育関係の施策事業について説明をお願いします。

はじめに全般について説明をお願いします。

(政策企画課長説明)

市長 次に大綱に絡む事業の説明をお願いします。

1 就学前教育の充実と児童の健全育成の推進について

(子育て支援課長)

2 生きる力や豊かな人間性をはぐくむ学校教育の推進 について

(教育部総務課長)

(学校教育課長)

3 いきいきと共に楽しく学ぶ環境づくり

(生涯学習文化課長)

(中央図書館長)

4 豊かなスポーツライフの実現とスポーツ環境の整備充実

(スポーツ推進課長)

5 地域の芸術文化の再発見と振興

(生涯学習文化課長)

(文化財課長)

市長 一通り来年度予算に係るポイントとなる事業を紹介いたしました。委員の皆様から何か気になる点があれば、御質問等いただきたいと思います。

照井渉委員 「施策別当初予算の状況」の資料の5ページの1-1、1-1-2の「子育て家庭等への支援」というところですが、政策企画課長からの説明で「子育て世帯住宅取得支援」新設とありました。その後の子育て支援課長の方から、具体的なものに関してはこれからというお話でした。だいたいの具体的な概要がもしあるのであれば、お聞きしたいと思います。

子育て支援課長 だいたい、住宅に関する経済的支援という方向では固めておりますが、詳細についての部分は、これから詰めるということになります。今、考えている方向性としては、子育てをしている世帯、子どもがある程度いる世帯という限定のもと、その方々が住宅を取得した、もしくはリフォームした、そういう場合にその費用に対する一部を一時的な補助金として交付して支援していきたいと考えているところです。

照井渉委員 少子化という問題がどこでもあると思いますので、少しでも補助いただければ、少子化のひとつの解消策になるのではないかと思います。

高橋きぬ代委員 施策費用の中にも出ておりましたが、個別支援事業についてです。予算の中では2-1-2「児童生徒への支援」のところに報告がありますが、ほかのところは減っている中で、増やしていただいている事や先ほどの説明の中でも非常に教育現場からのニーズが高い。今年も、人数としては増やしているということで、限られた予算の中では、大変ありがたいことだと思います。しかし、現場にいた経験からひとつ例を言いますと、3年生が体育館に移動する時、一人、よく教壇の後ろに隠れる子がいました。先生としては、体育

館に連れて行かなければならないのですが、一人が行かないために、結局、子ども達だけで体育館に行かせることもできず、何分かそこでロスが生じるわけです。職員室に走るにしても、学級の子どもですので、ただ引き渡せばいいわけではなく、同行動や会話も必要になってきます。そういった場面が、教育現場ではたくさん見られます。そういう中で、個別支援員の要求をたぶん学校現場としては、大変考慮しいただいていますが、その何倍もあるのではないかと思います。少子化の話も出ましたが、今後も、北上には子ども達に非常にいてねいに指導してくれる安心・安全な学校が多いということになれば、評判も良く増えるのではないかと思います。なかなか、苦しい予算ではありますが、そういった細かい所への子どもたちへの支援を継続して、更に力を入れて、予算配慮していただければありがたいと思います。

市長 今の意見に関しては、全くその通りでございます。
よく、現場を把握するということですね。

高橋善郎委員 教育委員会として考えると、要望は際限なく生まれてきます。教育委員会だけではなく、全体の予算として、どこもたくさん出てくると思います。予算にも、限度があるということですが。

先ほど市長さんにも御意見いただいたのですが、前回の校舎の老朽化、その他の問題、取り組んでいかなければならないものだという事で、前回お話した時には「まだ今すぐというものではない」、長期的に調査を進めていかなければいけないという話をいただきました。今後の予算編成の中で、計画を立てて、順番にやっていただいて、南小学校の分教室とかいろんなところに予算をいただいているのですが、長期的なものの計画を、アンケートを含めて、やり始めなければいけないものは、ある程度動き始めているのかどうかというところを伺いたいと思います。

市長 その点は動き始めています。特に、来年度はそれらの発注件数が60数件にのぼるということで、その対応を出来るのかというくらい、多いです。大きな予算をどんどん付けるのではなく、細かく見ながら優先順位の高いものから、着手することにしていきます。それらの例、着手したいと思っている計画を紹介していただけますか。学校の方、維持修繕の対象となるもの

財政課長

財政課長でございます。今、御質問にありましたのはインフラ資産マネジメントの関係の中で、来年の学校関係で考えているものを申し上げたいと思います。まず、黒沢尻北小学校の教室の屋根改修、飯豊小学校の多目的トイレの新設、北上中学校の屋内運動場の屋根の改修といったところが主なものです。そのほかにも、いくつかありますが、これら今申し上げたものは、改修・修繕といったものです。あと、いわゆるインフラ資産マネジメントというのは、全体としての大きなものをどういうふうに改修していくかという計画があります。これは、別な方で動かしています。修繕についても、緊急性の高いものを、年次計画で進めていきたいと考えていますので、御理解の方をよろしくお願いします。

市長

来年度と再来年度くらいになるかと思いますが、まず、インフラ資産マネジメントが出来るまでの間、まずは、緊急を要するものを今、手をかけていこうというものです。そのあとは、インフラ資産マネジメントに従って計画的に進めていきたいと思っています。

高橋善郎委員

直接的ではないのですが、前にシティプロモーションの話をいただいたことがありました。「ゆりかごから墓場まで」という人口減少に歯止めをかけるために「子育てをしやすいまち」というのは絶対必要で、ハードの面、ソフトの面、両方に力を注ぐべきであると話がありました。その中で私、その時に申し上げた意見が、市民の皆さんへのプロモーション、対外より、対内の人たちが「北上のここが充実している」というプロモーションをしていって欲しい、そうしていきますという話でした。今、設備的なハードの面も何年にやりますというのはなかなか申し上げられないとは思いますが、「計画しています」ということを、発信することによって、対内、いわゆる市民の皆様が安心した子育て出来ると思いますので、計画がある程度になった段階で、なりそうだでもいいので、発信していくことによって、対内へのシティプロモーションとして成り立っていくのではないかと思います。是非、よろしくお願いします。

市長

来年後半くらいには、示せるのではないでしょうか。

財務部長

現在、3年間に渡って、構築物の劣化調査を始めていて、終わっ

たものからではどういう形で、維持修繕をするのか、長寿命化をするのか、これから劣化調査の結果を見ながら考えていくことで、早ければ、来年あたりから担当課と話し合いながら、どうあるべきかを検討していきたい、計画していきたいと思っています。

市長 今年度・来年度、3年間？

財務部長 はい、3年間です。

市長 平成30年度までに完了するということですので、30年度初めくらいには、ある程度見通しを立てていかなければならないと思えました。

ほかにありますか。

薄衣景子委員 この資料に対する要望ですが、5ページ、6ページの予算に関する資料の見方として、市としての優先順位というのが、それぞれの基本施策。それから、細かい部分における優先順位というのが、なかなか一般市民にはわかりにくいと思います。こういう表を見る時に、どうしてもこの施策をするために、どれが一番大事なのかという方向性が見えると、もっと分かりやすいと思います。この増減の主な要因だけではなくて、それになるために、市として今後何が大事なのか。今年はこれが重点施策というところまでは分かるけれど、その後、何をしてどうするというのがなかなか見えにくいので、こういう考えでこの事業をまず優先していますというのが分かると、なお見やすく、大変ありがたいと思います。

市長 作り方として、単位は、基本施策単位でしたか

政策企画課長 これは、政策推進会議で、今、教育の部分だけ抜粋しましたが、全施策について、方向性の議論をしています。実は、この議論の前に29年度の当初予算の編成の前に、27年度での実施をチェックしたところで、課題はどこにあるのかという事を踏まえて、29年度に向けた推進の方策を立てます。それを経営資源として考えた時にどうなのかというのが、その右はじのところの施策の方向性というところで書いています。これは私が打ったのではなくて、政策推進会議の中での議論として出てきたものです。実は、この前の施策の推進

方針があつて、これにあるということだったので、そこを解説というか資料としては、連続性があるような形で示せるようにすればいいのではないかと、今、お聞きして、感じたところですので、そこは工夫したいと思います。

市長 施策ごとに重点化は出していますか。

政策企画課長 基本施策単位毎に今回はやって

市長 政策単位で重点化を出しているの

企画部長 政策化ではなく、戦略の中で

市長 戦略の中で政策毎に、重要視しているものには印をつけているのでしたか。

政策企画課長 戦略該当項目というのが、基本施策の中の施策にそれぞれあります。

市長 そういうふうな資料にすれば、もう少し分かっていましたよね。全体の中で最重点にしているのは、総合戦略に該当する部分をまず、優先して、予算を付ける、と。それがもっとわかれば、よかったかもしれないですね。

全体のもう少し分厚い資料があれば、どこに力が入っているのが分かりますね。必要があれば、差し上げて。

様々な御提言をいただきましたので、ありがとうございました。それを次に活かしていきたいと思います。そろそろ時間になりましたので、以上で協議を終わります。

教育部長 それでは、以上を持ちまして、第2回北上市総合教育会議を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。

(閉会 午後3時30分)

会議録作成者 北上市長 高橋敏彦